世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

「西本組本社ビル」を巡るその他の史料

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西本, 真一, 西本, 直子 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/395

「西本組本社ビル」を巡るその他の史料

Other Historical Material on the Former Office Building of Nishimoto-gumi

西　本　真　一*
Shinichi Nishimoto

西　本　直　子†
Naoko Nishimoto

要旨

本稿では、旧西本組本社ビルを大正時代の末期に建造した西本健次郎が、昭和時代初期の当時において非常に高名なジャーナリストであった徳富蘇峰に宛てて手紙を書き、それが徳富蘇峰記念館（神奈川県中郡二宮町二宮）の手紙アーカイブの中から見出されたことを報告する。残念ながら親密な交友関係を伝えるものではないが、貴族院議員を務めた健次郎の周辺を知る上で欠かすことができない書状である。

また、健次郎から西本家に受け継がれた品の中に、「皇室と紀州」の著者である瀧上巨志の筆による扁額と、陸軍大臣を務めて大正14（1925）年には政友会総裁となった田中義一の扁額が残されている点について考察を試みる。言わば左翼と右翼に属する双方の者が健次郎に近づいていた形跡とも読み取ることができ、当時の時代の情勢を考える上で貴重である。

1、前言

西本組の工事履歴については前稿において、多くのことが明らかとなった。軍部の工事や鉄道関連の仕事の実績から、やがて西本組は海外への進出を果たすこととなる。西本健次郎が多額納税者としての権利を得て貴族院議員となったのは大正14（1925）年9月であり、地域ではすでに広く知られた存在であった。大正14年発行の「社会画報」においては、そのさまがつぶさに報道されている。

しかし年月を経た昭和14（1936）年の徳富蘇峰への手紙では、議員を辞職することの挨拶が述べられており、文面は手書きではなく、印刷されたものであることから、同文が多方面に送られたことが推定される。健次郎の政治生命を伝える一端を、この手紙によって知ることができる

*環境研究所客員研究員　†工学部非常勤講師（建築デザイン学科）

であろう。

他方、西本家に残されている扁額２点はいずれも真筆であって、西本健次郎と政治に関わる者たちとの接点が憶測されるものである。写真とともに、史料としての紹介をおこないたい。

２、徳富蘇峰への書簡

貴族院議員を辞職する際に多くの人間に向け、西本健次郎は封書を発送したと考えられる。主な内容は印刷されたものであって、末尾の日付と宛名だけを筆記した。この手紙の宛名は「徳富猪一郎閣下」である。封書の裏面に記された日付は昭和14（1936）年９月１日であり、消印は同年９月２日と確認される。しかし一方で、書状の末文では日が記されていない。

住所は西本組本社ビルが立つ場所であった。徳富蘇峰はこの手紙に対し、返事を書いたらしく見受けられる。だが西本家は戦災に遭ったため、その返答は伝えられていない。

「謹啓　朝夕は稍涼味を覚え候処

高堂益々御清穆の段太慶至極に奉存候　陳謝（不肖儀）去る大正十四年以来各位の御後援により和歌山県選出多額納税者議員として貴族院の職席に列し国政に参与する光栄に浴すること前後満十四年此の間何等寸功の貢献もなく徒らに素餐の誹を免れずと存じ候得共幸いに大過なく今日に至れるは全く諸賢の御指導御誘掖

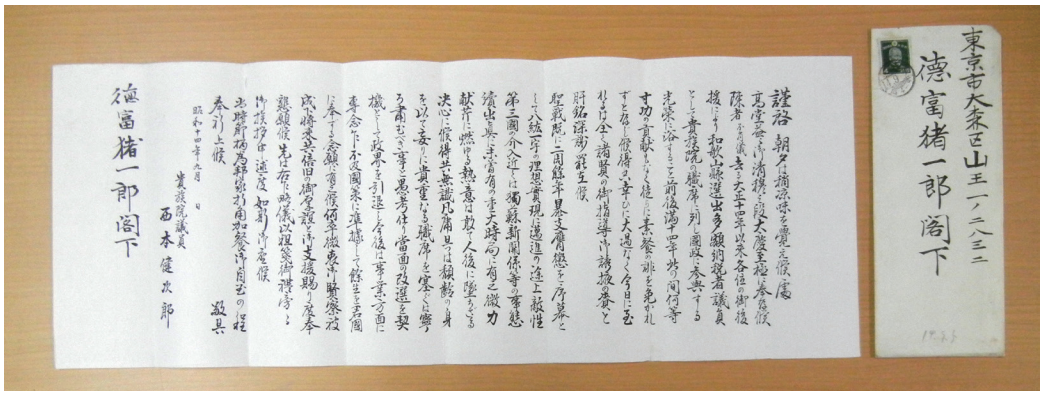

図１a：西本健次郎から徳富蘇峰へ宛てた封書

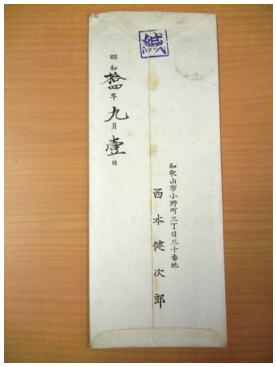

図１b：西本健次郎から徳富蘇峰へ宛てた封書

の賚と肝銘深謝罷在候
聖戦既に二周余年暴支応懲を序幕として八紘一宇の理想実現に邁進の途上敵性第三国の介入近くは独蘇新関係等の事態続出真に未曾有の重大時局に有之微力献芹に燃ゆる熱意は敢えて人後に墜ちざる決心に候得共無識凡庸且つは頽齢の身を以て妄りに貴重なる職責を塞ぐは寧ろ粛むべき事と愚考仕り当面の改選を契機として政界を引退し今後は事業方面に専念乍不及国策に準拠して余生を君国に奉ずる念願に有之候何卒微衷御賢察被成下将来共倍旧の御厚誼と御支援賜り度奉懇願候　先は右乍略儀以粗箋御礼旁々御挨拶申述度如斯御座候
当時節柄為邦家祈角加餐御自玉の程奉祈上候　敬具
昭和十四年九月　　日
貴族院議員
西本健次郎
徳富猪一郎閣下」

３、瀧上巨志の扁額

政治的に積極的な活動をおこなった瀧上巨志に関しては、重松正史氏の著作に詳しい。瀧上は「皇室と紀州」と題する著作を出版したが、この内容はそれまでに刊行された諸本の寄せ集めか

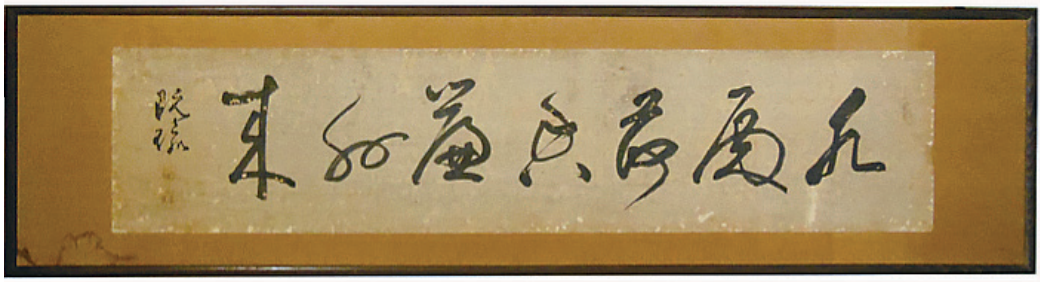

図２：瀧上巨志の扁額

図３：瀧上巨志の扁額、左端

ら成っているらしく思われる。

巻頭にはあしべ屋妹背別荘の奥座敷の写真が掲載され「再び光栄に浴する妹背別荘（西本氏邸上図）」のキャプションが添えられている。同ページ下方には皇太子の駐泊所となった双青寮（徳川候別邸）の写真が配されている。また巻末には健次郎による西本組の広告も見られる。

西本家に残っている扁額の保存状態は良好ではない。

印記では「巨志」、あるいは「之印」といった痕跡がかすかに認められるばかりとなっている。

彼が西本健次郎に接近した目的は明瞭ではないものの、しかしいくばくかの糧は得ることができたであろう。健次郎も、彼の求めに関し、鷹揚に応じたのかもしれない。

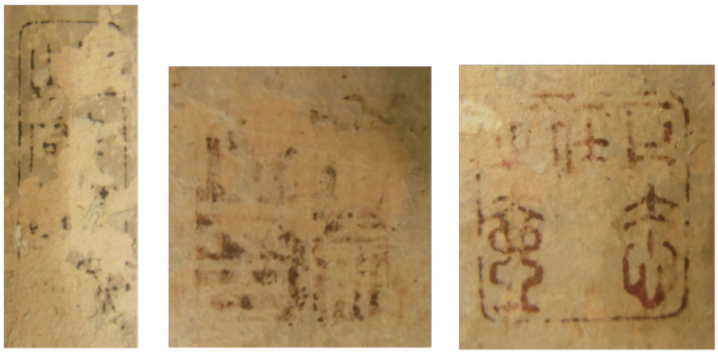

図４：印記

４、田中義一の扁額

田中義一（元治元［1864］～昭和４［1929］年）は政治家で、満州鉄道の敷設工事に関し、健次郎と縁があったと考えられる。

義一は大正14（1925）年に政友会総裁となっているが、同年９月10日に、貴族院令が改正されてから第一回の選挙があり、また憲政会が単独内閣を組織して初めての試みとなる貴族院多額納税者議員選挙が行われた。当時、和歌山県で優勢であった政友会支部が推したのが、和歌山市の健次郎であった。この選挙の顛末を取材した社会画報特別号によれば、政本・憲政の両党連合

図５：田中義一の扁額、「得天地清氣」

図６：田中義一の扁額、裏面

図７：扁額左端、「義一題」

図８：印記、「鐵心石腸」、「田中義一之印」、「素水？」

が推した候補者との間で大変な激戦であったことが知られる。当選を祝う選挙事務所のメンバーや、応援団、家族が、旧西本組本社ビルに隣接して後に戦災で失われた西本家の座敷に集う様子、また洋館の応接室で撮影された写真が多数枚掲載されている。旧西本組本社ビルの最古の写真となっている一葉が健次郎の写真とともに掲載されて、建造年代が大正末期であることを伝えているのがこの一冊である。大正14年の社会画報特別号を見る時、旧西本組本社ビルは時代の流れの中で極めて稀な人と資本の集中が起こった瞬間に生まれ落ちた建物であることが改めて了解される。社会画報は大正13（1924）年1月に創刊された和歌山県の所謂グラビア雑誌であり、福田紀市の編集により、山田銈二郎を発行人として、大正写真工芸所で印刷されていた。

この扁額の裏張りには明治45（1912）年の販売簿が用いられていることが判明している。

５、まとめ

短い期間ではあったが、貴族院議員を勤めた西本健次郎のもとには多くの人間が集った形跡が認められる。ここでは代表的なものを紹介したに過ぎない。徳富蘇峰との交友は深いものではなかったであろう。瀧上巨志は言わば風雲児で、和歌山においてさまざまな政治的な活動をおこなっ

た。しかし彼の活動の痕跡はそれほど多くは残されておらず、西本健次郎との接触も長くは続かなかったと推定される。田中義一との関係も、多くは不明なものに留まる。しかし当時の社会情勢を知る上で、これらの史料は公開すべき充分な価値があると思われる。

西本家の収蔵資料は戦災を受けたために多くはないが、残されたものをさらに詳しく調査して公開をおこないたい。

参考文献

太田宏一「大正写真工芸所について」、和歌山市博物館紀要 24、平成 22（2010）年、pp.13-27。
阪上義和「紀の国百年人物誌」、紀の国文化社、昭和 42（1967）年。
阪上義和「郷土歴史人物事典：和歌山」、第一法規出版、昭和 54（1979）年。
重松正史「大正デモクラシーの研究」、清文堂、平成 14（2002）年。
高嶋雅明「和歌山県域の経済発展と有力資産家：『和歌山県貴族院多額納税者議員互選人名簿』の分析」、紀州経済史文化史研究所紀要 1、昭和 56（1981）年、pp.183-204。
瀧上巨志「皇室と紀州」、和歌山大公論社、大正 11（1922）年。
土木工業協会編「日本鉄道請負業史：明治篇、中」土木工業協会、昭和 19（1944）年、pp.486-490。
西本真一・西本直子「旧西本組本社ビル」、武蔵野大学環境研究所紀要第 2 号　平成 25（2013）年、pp.95-104（http://issuu.com/naokonishimoto/docs/musashino2013_nb）。
西本直子「旧西本組本社ビルの建造年代について」、日本建築学会 平成 25（2013）年大会講演梗概集 F 分冊、pp.921-922。
日本建築学会編「新版日本近代建築総覧」、技報堂出版、昭和 58（1983）年、p.341。
日本建築学会編「総覧日本の建築第 6-II 巻、奈良：和歌山」、新建築社、平成 14（2002）年、p.254。
文化庁文化財部編「総覧登録有形文化財建造物 5000」、海路書院、平成 17（2005）年、pp.119; 270。
和歌山県教育委員会編「和歌山県の近代化遺産：和歌山県近代化遺産（建造物等）総合調査報告書」、和歌山県教育委員会、平成 19（2007）年、口絵、pp. 204-205; 246。
「旧西本組本社ビル」、和歌山県建築士会 HP、http://www.wakayama-aba.jp/isan_meguri/1197.html、閲覧：平成 28（2016）年 12 月 25 日。
「社会画報：多額議員選挙特別号」和歌山社会画報社、大正 14（1925）年秋。
国立国会図書館「帝国議会会議録検索システム」、http://teikokugikai-i.ndl.go.jp、閲覧：平成 28（2016）年 12 月 25 日。